

報 業

第五回評議員會 昭和十六年三月十一日午後七時より神田學士會館に於て 第五回評議員會を開き、次の事項を決議した。

一、安藤正次氏を評議員に推すこと。

一、昭和十六年五月十日(土)に第四回大會を開くこと。

以上の外。本會の會計が會費のみでは年々不足であるため、その對策を種々協議した。當日の出席者は新村出、小倉進平、安藤正次、金田一京助、神保格、千葉勉、東條操、西脇順三郎、辻直四郎、小林智賀平、井筒俊彦、木村彰一、高津春繁の諸氏であつた。散會後新村會長より金百圓也の寄附があつた。

第四回日本言語學會大會 昭和十六年五月十日(土) 午後一時半より東京帝國大學法文經第二號館第三六番教室に於て第四回會本大會を開いた。小倉副會長の開會の辭の後、辻直四郎評議員より會務及び會計報告あり、直ちに講演會に移る。

一、佐久間鼎氏 構文と文脈

一、新村 出氏 風の名と雲の名

當日は聴衆二百名に及び盛會であつた。

引きつづき五時半より東大前鉢之木で 晚餐會を開き、集會者四十名、例年の如くデザートコースに入つて、會長始め諸氏の テーブルスピーチがあり、八時半散開した。當日は甚だむし暑く、皆々平叩した。

この日既に承諾を得てゐた坂本記念會文化事業部より金五千圓也、(但し昭和十六年より毎年一千圓づつ)の寄附の正式申込あり、之を受領することに決定した。

臨時評議員會 昭和十六年六月十一日(水)夜神田學士會館に於て臨時評議員會を開き、次の事項を決定した。

一、坂本記念會文化事業部よりの寄附金は 有益な研究物の出版その他の費用に宛てること。

一、出版書的選擇及び調その他の査に當るため 新村會長より市河、金田一、神保、橋本、小倉の五氏に對し委員を指名囑託すること。

一、今後「言語研究」原稿執筆者に對し若干の原稿料を贈呈すること。

一、本年十月十一日(土)に本會第七回講演會を開くこと。

當日の出席者は 新村出、小倉進平、市河三喜、金田一京助、神保格、千葉勉、橋本進吉、辻直四郎、小林智賀平、高津春繁の諸氏であつた。

第七回講演會 昭和十六年十月十一日(土) 午後一時半より東京帝國大學法文經第二號館第三七番教室にて第七回講演會を開催。

一、今岡十一郎氏 洪牙利民族とその言語

一、高津春繁氏 比較方法に於ける共通基語再建の可能性について

この日は東大に特設防護団結成式及び式後の防空訓練があり、そのために 學生及び職員の聴講者が少く、集會者は五六十名であつた。司會者小倉副會長。午後五時すぎに閉會。

一、本會會員佐藤誠氏は八月に、また幹事木村彰一氏は十月初旬に、守中裕幸氏は十月十九日にそれぞれ 應召出征せられた。